



利益主義という経済の危うさ

令和7年7月3日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

経済はライフラインを支えるものである。それらが自己の責任を離れ、利益を追求することは、経済の本質を失うことなのである。

これらは西洋においても高い企業倫理性が経済の根幹として存在することは理解できるものである。

今日の経済の転換はその高い利益性における資本力が、新たな技術開発へ猛進するという大きな変化を経済が有するのである。

これらが、自由経済という自由とともに、未来の創造を模索しているのである。これら競争と進歩というスパイラルは、人類の進歩の原動力であり、それが今日の現実を与えたものである。

しかしそれらが完全のコントロールを失い、利益主義という現実へ猛進することは今日存在するのである。

これらは共生や協調という新しい社会主義思想が一定の固定を得ることを理解できるものである。

しかし競争と合理性という西洋的思想的根本性は、その強靱な自己とともに新たな世界を求めるものであり、彼らはそれを否定するものでないのである。

これら経済の現実に対してその強さは、グローバル経済という現実とともに、彼らの現実に対して必ずその対等性を自己に要求するものである。

これらが日本の従属性の根本性であり、対等な自己は対等な自己基盤を要求するものである。

これらが企業に与えられた使命であり、自由経済システムという現実には、競争を否定できないものである。